今年の都留高校生が選ぶ漢字は？

早いもので2022年も終わりを迎えようとしています。今年はどんな１年でしたか？都留高新聞同好会では毎年、都留高生が選ぶ漢字１文字をアンケート調査しています。昨年は工事が頻繁にあり新しくなったことから「新」「工」、一昨年はコロナ禍で変わったことが多かったため「変」でした。そして今年は「新」となりました。

都留高生が選ぶ今年の漢字となった 新 。

書いてくれたのは1年1組「小俣涼人、菊地璃秋」君です。

今年も「新」でした

毎年恒例となっている都留高校生が選ぶ今年の漢字が「新」となりました。１２２票の回答をいただき、17票が「新」、２位に14票で「楽」、３位に13票で「変」でした。「戦」は、都留高では12票でした。

１年生で多かったのは「新」、２年生は「楽」、３年生は「戦」「争」「楽」でした。

全体１位の「新」は一年生が多く、選んだ理由としては「新しい環境、新しい環境になったから」という理由が多かったです。「楽」は「楽しい一年だったから」、「変」は「環境が変わったから」、「戦」は「戦争から」、３年生からは「受験戦争中だから」という回答も目だちました。変わった回答としては「乍」で「なが-ら」と「たちま-ち」という読み方だそうです。

ちなみに公益財団法人日本漢字検定協会の今年の漢字は１位が「戦」、２位が「安」、３位は「楽」、４位が「高」、５位が「争」でした。

都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高校新聞同好会

取材・広告
希望の方は
新聞同好会
（木内）まで

歳末の募金活動

12月2日早朝に都留高校ボランティア同好会と生徒会本部有志が大月駅前にて募金活動を行いました。これは毎年この時期に大月ロータリークラブと合同で行っているもので今年は20名程度で１時間行いました。当日は朝早いにもかかわらず募金箱に立ち止まっていただき、多くの善意を受け取りました。

ボランティア同好会について会長の大久保綾奈さんは主な活動として「主にやまびこ支援学校との交流会をしています。今までは直接会って交流会をしていましたが、コロナ禍ということもあり近年はオンラインで開催しています。地域のために使えるように、年末には募金活動も行っています。」今後の目標としては「地域のために都留高生が貢献できることを目標に活動しています。」「募金活動など、ご協力よろしくお願いします！」と語ってくれました。

大月駅前での募金活動（12月2日）

修学旅行の記憶

私たち二年次生は十二月十一日から四日間、広島、四国方面の修学旅行に行きました。私の心に残った事や感じた事を四日間の修学旅行を振り返りながら書いていきたいと思います。

一日目は広島県の平和記念公園へ行きました。**自分の目で見た原爆ドームは、言葉では言い表せないほど酷いもので、核兵器の恐ろしさを改めて感じました。平和記念資料館では、核兵器によって苦しめられた広島県民の写真、着ていた服、一瞬にして奪われた街の写真等がありとても心が苦しく、痛くなりました。そしてガイドをしていただいた小野久仁子さんは現代を生きる私たちに語りかけてくれました。「もう決して原爆ドームやアウシュビッツ強制収容所のような世界遺産を作ってはいけません。私たちは平和な時代を築いていかなければなりません。」この小野さんの言葉を聞き、平和な時代を創り上げる覚悟を持つ事ができました。**二日目・三日目は班別行動でした。道後温泉・今治周辺の歴史建造物や博物館に班ごと行きました。私たちの班はその他にも、山梨県にはない海で昆布を木で取ったり、正岡子規堂で「坊っちゃん」の最初の原稿を見たり、この旅行でしか経験できなかった特別な思い出を作ることができました。四日目は比叡山、海遊館、明治村などクラスで異なる場所に行きそれぞれの時間を楽しみました。明治村では、明治時代の建築物や夏目漱石・正岡子規の家などを歩いて見てまわりました。印象的だったのは、明治時代に女性が着ていた袴を実際に着る体験をした事です。明治時代の女性たちは毎朝この着付けをしていたと聞いた時は、とても驚きました。この四日間は、非日常を仲間と楽しみ二年次生が自立するためのきっかけとなったと思います。この旅行で得た経験を、これからの学校生活に活かして受験生になる準備をしていきたいと思います。

最後に、私たち二年次生のためにこの修学旅行の計画を立て、コロナ禍の中旅行に行く決断をしてくださった先生方ありがとうございました。先生方のおかげで高校生活一番の思い出を作ることができました。本当

自学進取

20世紀終わりに21世紀は中国の時代といわれ、当時本当かなと高を括っていたが現実に中国の躍進はすさまじいことを実感する２０２２年であった。習近平氏が再選され、今後も「一帯一路政策」は続くだろう。確かに古来より日本は中国大陸からの影響を受けてきた。その一つは漢字だ。今年の漢字は「戦」と発表された。都留高では「新」であった。たった一文字で意味を表せるのだから便利なツールだ。思想も中国から入ってきた。儒教思想の先輩後輩の関係性や道教思想のお守りやお札だ。今期アニメ化された白川紺子『後宮の烏』（集英社オレンジ文庫）は中国思想の世界観を色濃く表している。あらすじは「後宮の奥深く、『烏妃』と呼ばれる特別な妃が住んでいる。その姿を見た者は、老婆であると言う者もいれば、少女だったと言う者もいた。彼女は不思議な術を使い、呪殺から失せ物さがしまで、何でも引き受けてくれるというらしい。」という話だ。護符により、身を守るなど日本人にすぐに受け入られることが中国と密接な証拠だ。世界史の唐の時代に出てくる中書省とか、節度使等が出てくることにより物語に現実味を持たせていることも人気の秘密かもしれない。来年も中国の動向には目が離せない。

シリーズ―都留高新聞の歴史⑤

当時の高校生も・・・

昭和30（1950）年1月8日発行の都留高新聞に面白い記事があった。

『血液検査行う』という見出しの記事では「去る12月23日から3日間渡り、東西校舎につき、この程保健担当の先生方により校医の先生方にお願いし特別に1、2年生（3年生は1年生の時に血液検査を行った）について血液検査を行った。その結果は以下の如くである。A型―40%、O型―26%、B型―23%、AB型―11%」とあり、その後血液型と気質と関係について記事は続く。「（多くの学者は否定的であるが、○○（判読できず）的に興味ある故・・）古昔から『十人十色』とか、人間の性質は千差万別であるのに、右表の様に小範囲に縮小したのに対してA型は、これだけの気質か、と思う者が一寸おかしいのであって、この表は、あくまで参考上のものである。本校の土屋先生は『私はB型ですけれど、似ていますね、（一寸感心したような顔で）長、短いずれも似ている特に（恥ずかしそうな顔で）（多弁）の所わね・・』と快活そうに笑って言われましたよ、生徒諸君は如何かな・・？自分の血液型は何でしたか、型と気質はどうですかねA型でない方々は短所を早く消化するよう心掛けて下さい。」と締めくくっている。

70年前以上の高校生が血液型に性格に興味を持っていたとは驚きだ。今の高校生が当時にタイムスリップしても案外慣れればすぐに打ち解けることができるのかもしれない。

都留高新聞

血液検査行う

日本の傾向はA型

血液型は伝統によって異る

血液型と気質との関係

御贈答品には 米屋の時計と万年筆を御利用下さい TEL（大月）429

買いものは 石川履物店

小松べ

昭和30年1月８日の３面

今注目の人

今回は生徒会役員執行部の二人にお話をお聞きしました。

事務局長の佐藤一志さん

事務局長　佐藤一志さん

Q1、都留高校の好きなところはどこですか？

―7分休みという忙しい学校生活の中で部活と勉強の両立を頑張っているところが良いところだと思います。

Q2、力を入れたい学校行事は？

―やはり、学園祭です。年に一度のしかない行事であるし、全校生徒全員の思い出に残るものだと思うので、みなさんの希望になるべく近づけ、より学園祭をつくれるようにしていきたいと思います。

Q3、どんな事務局長になりたいですか？

―現在はコロナウイルスの影響で思うように活動ができていませんが、だからこそほかの部門の仕事を手伝っていけるようにしていきたいと思っています。

Q4、最後に好きなお母さんの手料理は？

―パンケーキです！小さいころからお母さんに作ってもらってるし思い出があります。そして忘れられない味でもあるので大好きです。

財務局長　武藤凜さん

Q1、都留高校の好きなところはどこですか？

―みんな学校生活を楽しんでいて、明るいところです！

Q2、力を入れたい学校行事は？

―学園祭です。1年の行事で1番大変で生徒会の腕の見せ所だと思うからです。

Q3、どんな事務局長になりたいですか？

―3、お金に関係する局なので責任を持って仕事に取り組む局長になりたいです！

Q4、最後に好きなお母さんの手料理は？

―ビーフシチューです。特に時間をかけていてこだわりがあるからとても美味しいです！！

財務局長の武藤凜さん

3年ぶりに開催 グランドステージ及びパレード

11月10日（木）に3年ぶりに県高校芸術文化祭のパレード部門とグランドステージ部門が開催されました。

パレード部門の花形ともいえる各校のチアリーディングを取材させていただく機会を得ました。

山梨学院高校のチアリーダー部は定番のポンポンではなくリングを使用することできらきらと可愛くし、また列ごとでの色の違いも出していました。「今回のパレードではそのリングの使用を特に目立たせ、頑張りたい」と意気込みを語ってくれました。「ここ数年コロナ禍で活動が制限されることもありましたが1、2年生の絆で体育祭などの学校行事も無事終わることができました」。学院高校は野球部とサッカー部が強豪校であるため応援に行く回数が多く、バスの移動などを通して絆を深め全員がとても仲が良いとのことです。また、バレエをやっている人など、みんな様々な個性が溢れる部でした。

東海大学附属甲府高校チアダンス部はこのパレードを「チーム全体で笑顔で頑張りたい」と意気込んでいました。「今回の演技のポイントは、2年生が考えたオリジナルの振り付け」と笑顔で話してくれました。

チアというと笑顔で元気をくれるイメージですが、コロナ禍でマスクの下が見えず笑顔をチェックし合うことが大変だったそうです。そんな中、「マスクをしても笑顔が伝わるようにと協力して練習してきた」と語ってくれました。笑顔で真剣に答えてくれた東海チアダンス部に、私たちもインタビューの少しの時間で元気をもらいました。

ドリルステージを行う各校チアリーディング部

都留高吹奏楽部がファンファレーを

11月10日に行われたグランドステージでは、都留高吹奏楽部が開会宣言のあとのファンファーレを演奏した。これは夏の吹奏楽コンクールで金賞をとった学校で行うこととなっており、今年はその名誉を都留高吹奏楽部が得たこととなる。

ファンファーレには顧問の堀内昇二先生、矢﨑琢先生も参加した。なお、その模様は山梨県高文連のホームページ内、「第43回芸文祭 パレード＆グランドステージの様子 ～写真と動画配信～」から現在も見ることができます。第1部の50分くらいからになりますのでぜひ、ご覧ください。

11月10日、グランドステージ「ファンファーレ」での様子